

平成27年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

申 請 者	所属部局・職名	農学生命科学部教授・准教授
	氏 名	松崎 正敏・石塚 哉史
事 業 名	東アジアフードチェーンの広域化・高度化に対応する人材育成プログラム	
事業の概要とその成果		
<p>【派遣者(指導教員, 参加学生)】</p> <p>指導教員 松崎 正敏、石塚 哉史 参加学生 農生修士1年 1名、農生4年 1名、農生3年 4名</p> <p>【実施期間】</p> <p>平成27年9月5日～平成27年9月15日</p> <p>【事業概要とその成果】</p> <p>①事業概要 東アジア圏内におけるフードチェーンの広域化・活性化が進展する中で、青果物及び加工食品の有力な輸入相手国である中国を対象に大学でのワークショップ、食品企業や大規模農業での研修を通じて、①日本産、青森県産農産物・食品の優位性(競争力)を見いだすこと、②前述の①を踏まえ、地域資源の利活用方法を検討すること、に対応可能な人材育成を目指した。</p> <p>具体的には、①訪中以前に日中間の農産物・加工食品貿易関係の資料・文献の輪読、統計データの整理、日本国内の農業・食品産業の概要説明の資料作成を行い関連知識の習得に努めた。②青島農業大学の学生・院生と共同でワークショップを開催し、日中両国の農業・食品産業の現状と課題を学ぶと共にディスカッションを行った。③中国進出日系食品企業である山東朝日緑源農業新技術有限公司、山東朝日緑源乳業有限公司、萊陽花樂町種有限公司、山東日龍有限公司において農場実習及び加工・流通事業の視察を行った。④前出①～③な内容を踏まえて参加学生・院生が主体となり、帰国報告会並びに報告書作成を行い、研修で習得した内容の定着に取り組み、前出の目的に接近した。</p> <p>②事業成果 本事業を実施したことにより、①参加した学生・院生による中国に対する興味・関心が高まり、国際的な視野の拡大という点、②海外における食と農の現場を目の当たりにしたことに伴い、グローバル体制下における日本国内の農業・食品産業の持続的発展に対する意識の醸成につながった点、の2点が成果として指摘できる。とりわけ、一般的に受動的な言動が多く見受けられる本学の学生が、他国の学生等との交流等に対して能動的に活動した点は評価に値するものと考えられる。</p> <p>なお、9月9日～9月11日まで青島市郊外の萊陽市で実施した中国進出日系食品企業での研修について、当初は各日とも日帰りで実施する予定としていたが、受け入れ先が遠隔地に立地していたため、高速道路等の交通事情や移動時間を踏まえ、研修時間の十分な確保のため現地宿泊としたことにより、借上車ドライバーの宿泊が必要となった。また、9月13日～9月14日には青島市内において、自由市場等への視察が早朝の出発となったためにドライバーの宿泊を要した。以上の理由により、当初見込んだ車輛借上費に時間延長及びドライバー宿泊に伴う追加料金が発生することとなった。</p>		